

おの社さうしうまきら幸成り上徳國それの思ふ縁のあしあし
塔をつるとしとあしき幸あれ其國の人とていふやりにしる幸あか
しとて其家よりいふる圖一ひんをとおせりねんごうごうそく上徳國
山邊郡東金谷多村甚な多倉中鐵塔真圖は國やひんしうとあちうて
てなるいせり
とてまけ家赤金のいまと是田方村といひしうとて火災をまぬる
幸成りありぬより人奇異のぬりしを天の積る所又積善の金
赤もく程おはぬとて天保三年五月とまきりこみくれをえ
まにこい感成る幸のありけれ長短二帝の和歌をつくりて相まけ人
よおくれ具教

源朝臣梅龜

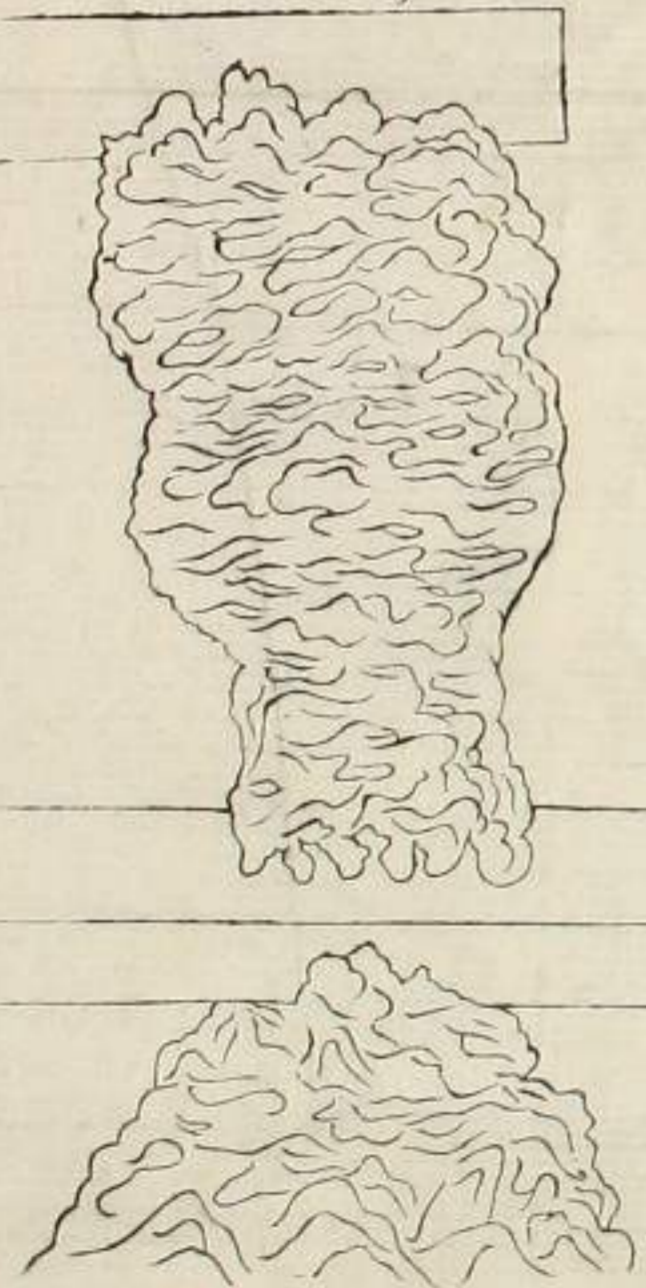
けりぬ 圖をいへ 風のやれ せぬまけり ゆる麻北 上つ徳國
塔の圖北 山邊郡より 代と積る 甚な多村をい 玉らふ 神のまきり
よまきを つあるより あし玉れ 事をいへて そのやの 築えしつ
かくつらの 神とあしき せなるれ 枉事がことなは ぬけし 寺てらまきり
おほくの 人よりいふ 縁といふ はおまきり おのつら 心こころつらて
むし肝の くらあつまり 其家の きりしつ 縁ゆかりしと 埴はまきりて
けりぬの えきき月日 いつて 塔つらぬ 其塔を たんにおむま
世つらぬ あぬおと 人みよの んまじり そのやに まきりて
あしちの 縁はまきり はんまきり かねまきり 心こころつら
かきしつ

と一塔つはらぬ塔をつらぬ心あゆむしゆのあちまひ
縁ゆかりも伴ともあちむむらりてまきりつ塔つらぬる 了教

偶成 梅龜

智媛尤雲物。穴中筑了屯。
昔成五八怪。留得廿年痕。
遠路能知美。攀格更报恩。
火災因爾免。長以蓬家門。
同 了教
倉中群像似同情。二十餘
年不變。勿謂穴居能保
岸。浮圖擬得業將成。

高さ五尺
余寸
圍三尺
尺七寸
イタル



同年十二月彫刻

天満順則堂藏板